

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	総和中央病院 児童発達支援事業所 はなもも			
○保護者評価実施期間	令和7年4月1日 ～ 令和7年4月12日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	106名	(回答者数)	51名
○従業者評価実施期間	令和7年4月7日 ～ 令和7年4月12日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数)	8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年4月12日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・十分な人員の確保に加えて、職員が医療専門職：リハビリテーション専門職で対応しているため、医学的な範疇での療育の実践が可能であること	・医療専門職の十分な確保のために、複数の養成校より臨床実習の受け入れを積極的に行っており、欠員補充がスムーズに測れるように対応している。	・すべての職員が医学的技術や知識を、常に刷新できるように、研修の機会を十分に確保できるように進めています。
2	・療育後に毎回、実施内容に関するフィードバックを伝えることで、保護者からの理解を得られるような取り組みを実践しています。	・あえて事業所での送迎を導入せず、毎回保護者が同伴で通所いただくような形式をとることで、療育効果や今後への目標設定を、常に保護者と共有するように進めています。	・職員からのフィードバックを、さらに理解しやすいような配慮を心がけていきたい
3	・通学先や教育委員会との密な連携を進めることで、それぞれの課題を早期に共有することで、発達課題に対する認識の齟齬が生じないような体制を組んでいる。	・必要に応じて、通学先への訪問指導などを実践していることで、教諭等との顔の見える関係を構築するように努めています。	・通所児童、すべての通学先と連携ができていないわけではない（特に遠隔地）ため、さらに連携強化を図っていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・基本的に個別担当制を中心に、療育を実践しているため、担当以外の通所児における情報共有が、十分とは言えない点がある。	・毎朝、職員間の情報共有のための、会議を実施しているが、勤務シフトの関係により、常にすべての職員が、タイムリーに情報を受け取ることができないため。	・SNSツールを活用することで、勤務日以外においても、会議内容を共有することが可能な試みを進めている。
2	・職員の経験年数の2極化が生じていることで、療育時のスキルや知識等に、格差が生じていること。	・事業所所在地よりも遠隔地の出身者が多いため、毎年一定数の退職者が出ていることで、養成校からの新卒者を受け入れることで、生じる課題である。	・卒後教育の徹底化を図るため、各職能団体の研修を受講しやすいように、年会費や受講費用の支弁を徹底している。
3	・外部からの評価（第三者評価など）を受ける機会が乏しく、業務改善への客観的視点での指導が受けられていない。	・第三者評価を依頼するべき組織等との調整が、進んでいないため。	・法人としての意識改革や必要性を醸成することが必要になる。